

平成28年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1470800622	事業の開始年月日	平成15年2月1日
		指定年月日	平成18年4月1日
法人名	社会福祉法人 湘南福祉協会		
事業所名	グループホームそよ風		
所在地	(236-0022)		
	横浜市金沢区町屋町11-16		
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護	登録定員	名
	<input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	通い定員	名
		宿泊定員	名
		定員計	9名
		ユニット数	1ユニット
自己評価作成日	平成28年11月8日	評価結果 市町村受理日	平成29年4月19日

基本情報リンク先 <http://www.wam.go.jp/wamappl/hyoka/003hyoka/hyokanri.nsf/pSearch3?Open>

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

- ◆入居者の方、一人ひとりの個性や生活習慣を大切にし、出来るだけ自由にホームでの生活を送れるように支援しています。
- ◆近隣とホーム、入居者一人ひとりの関係が良好で、近隣の方皆さんが地域の一員として受け入れてくださっています。
- ◆近隣の方が、ボランティアとして活動してくださっています。
- ◆法人が総合病院の為、医療面でのサポートが受けやすくなっています。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社フィールズ		
所在地	251-0024 神奈川県藤沢市鶴沼橋1-2-7 湘南リハウスビル4階		
訪問調査日	平成28年12月5日	評価機関 評価決定日	平成29年1月15日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

事業所は京浜急行線「金沢文庫駅」または「金沢八景駅」から徒歩約12分の距離です。周辺には神社や寺院、昔ながらの商店街があります。1キロほど先は海浜公園と平潟湾になります。事業所は1ユニットの2階建て木造建物です。

<優れている点>
入居者一人ひとりが自由にホーム生活を送れるよう、地域との良好な関係づくりを築いています。民生委員をはじめ自治会役員への発信力が高く、アプローチによる協力をホームは得ています。入居者も地域の一員として、各種の地域行事に参加したり、ホームの主催行事に地域の人々を招いています。建屋補修のペンキ塗りを見かねた近隣者が手助けしたり、エアコン、換気扇の保守をボランティアが実施しています。大学生がホームを訪れ、入居者の話を傾聴したり、食事を一緒に楽しんだりしています。運営推進会議の日にあわせた防災訓練では、地域住民と共に訓練を行い、「浸水地区内要援護者施設」を双方で認識し、水災時の相互協力手順などを確認しています。毎日の散歩では、途中の寺院に招かれて立ち寄り、湯茶や茶菓子の振る舞いを受けています。

<工夫点>
職員の発案で「28年度の介護目標」を全員が作成し、これを玄関廊下に貼り出しています。掲示された介護目標は全職員の名前と共に1年間の個人別介護目標として、職員同士、家族、来訪者に具体的に示しています。ホームの理念を職員が自分なりの考えに置き換えて、業務改善のPDCAサイクルを廻しています。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1～14	1～7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15～22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23～35	9～13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36～55	14～20
V アウトカム項目	56～68	

事業所名	グループホームそよ風
ユニット名	

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えています。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	職員会議の際には、理念を読み返し確認をしている。玄関、事務室に理念を掲示し、職員が常に確認できるようにしている。	法人理念のもと、事業所独自の理念があります。「安心と安寧に満ちた生活」を支援するため、全職員は28年度の個人介護目標を作成して玄関通路に名前と共に掲げています。職員会議では理念と個人目標との関係を振り返って、次に繋げています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	商店街のお店が少なくなってきたが、お花屋さんや薬屋さん、美容院などなじみの関係が出来ており、ホームや、入居者の事を気にかけてくれる。散歩コースにあるお寺さんでは、散歩時にお茶を出してくださるなど、地域の一員として大切にされている。	自治会では班長を務めたり、町内会行事（祭り、敬老会等）に参加しています。保育園児がバスで定期的に訪れています。ホームの環境保全のペンキ塗りに見かねた近隣の人がボランティアで協力をしたり、近隣の大学生が傾聴ボランティアなどに訪れています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	ご近所の方が通りがかりに相談に見えることもある。 見学にいらしたご家族からも、積極的に困ったことを伺い、アドバイスできることは行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	今年度は、新たに複数のご家族、退所された入居者のご家族、訪問看護師にも参加頂き、ホームの現状をお伝えしながら、サービスの内容や運営方針についてもアドバイスを頂いている。	開催は2ヶ月に1回です。参加者は家族、自治会長、民生委員、地域包括支援センターや近くに住む法人の訪問看護師（2度同席）などです。敬老会などに出席する、ホーム参加者の事由行動の予想を事前に町内会にも伝えたらとの民生委員からの助言もあります。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	金沢区のグループホーム連絡会で定期的に区の職員から情報を頂いたり、こちらから報告を行っている。 今年度9月からは、金沢区からの介護相談員の受け入れを行っている。	8グループホーム連絡協議会に参加しています。このホームは浸水地区内要援護者施設であり、区役所との対応手順を双方で確認すると共に、職員のできることを具体化して、その後の支援を待つことなどを研修しています。介護相談員は初回の訪問があります。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	そよ風では「身体拘束は行わない」事を、職員間で周知している。 研修・ミーティングを通して身体拘束をしないケアについて学んでいる。	「身体拘束は行わない」の具現化に、言葉の使い方を重要視しています。言葉が崩れると姿勢も崩れるとして「ちゃん」から「さん」へ状況を踏まえつつ変化をさせています。年1回の研修では身体拘束と言葉の拘束について学んでいます。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	どのような事が虐待となるのか等研修や、ミーティングで確認している。 困ったときには、ケアしている職員が他の職員と変わってケアを行うなどの工夫もしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	入居者の必要に応じて、安心センターや後見人制度を利用している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	入居時に契約に沿って説明し、同意を頂いている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	始まったばかりだが、介護相談員の方が、2か月に1度来所され入居者や家族から話を聞いてくれている。 ご家族とは、面会時にできるだけ、お話をするように心がけている。	運営推進会議で家族の意見を聞き取っています。個別の面談時や電話での連絡時にも要望を聞き、看取りについても契約時のほか、質問に対して、その都度、考え方を伝えています。「そよ風」便りでは入居者の近況を報告し、家族の意見を出し易くしています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	職員会議、朝夕のミーティングの中でスタッフの意見を聞き、反映させている。	2ヶ月ごとの定例会議に職員は提案をしています。自分の仕事で気付いたことや提案したいことを「職員会議資料」に記述しています。職員の意見で1週間に1回、勤務シフトを1時間早めて出勤し、利用者の冬場の朝の散歩希望にも同行支援しています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	話しやすい、風通しの良い職場環境を目指して、職員みんなが意見を言い、出来ることは皆で協力している。活動日、休暇は希望を聞き極力希望に沿った勤務体制を作っている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	職員が内部研修や外部研修に参加し、スキルアップを心がけている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	金沢区内のグループホームが集まり、勉強会や相互訪問が始まりつつある。法人内での研修会や会議を通して、情報を交換している。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	ご本人の話をよく聞き、その中から思いや、不安を受け止めるようにしている。ご本人に、寄り添いながら日常を過ごしていただくことで、ホームの中での居場所を一日でも早く見つけて頂けるように心掛けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	ご家族からは、入所までの経緯をまず詳しくお聞きし、話の内容を受け止める。入所することで家族がホッとできるよう、ホームでどのように対応していけばよいかご家族と一緒に考える時間を作っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	ご本人思い、ご家族と話し合い結果を踏まえ、ケアプランを作成している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	朝の掃除等職員と一緒にできることは一緒に行っている。食器の片づけや、洗濯物畳みなどそれぞれが出来ることは自力で行っている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	入居時点でご家族とは、これからも一緒にご本人を支援をしていくことを確認している。隔月のお便りでホームの様子やご本人のご様子を伝えるようにしている。心身の変化があった時には些細な事でも、電話、メールで伝えている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	殆どの方が、近隣から入所されているため、ホームに友人や知人が訪ねてきやすい雰囲気作りを心がけている。散歩に出ると、知り合いの方や友人に出会い話をすることもある。	日常会話の中から読み取った、入居者の出身地を壁の日本地図にマークして示し、写真も一緒に貼っています。散歩時での知り合いからの声掛けや挨拶に、入居者と職員ともに答えています。友人が訪問した時には居室での会話を勧めることもあります。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	入居者さん同士でお部屋を行き来することも多い。気の合わない方同士や、揉め事が見られる時には職員がクッション役を取っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	契約終了後も、相談の連絡が入ることも多い。昨年からは、退所されたご家族が運営推進会議に出席して下さっており、ホームの運営を応援してくれている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居者さんは、皆さんご自分のやりたい事や、食べたい物を職員に伝えたり、訴えたり出来ている。可能な限り要望には応えている。訴えを声にできない方には、出来るだけ寄り添い、要望を感じ取るように努めている。	異常行動や外出願望の強い利用者に対して、一ヶ月半朝の30分の散歩に毎日寄り添うことを続けています。眠れない人にはオルゴール音を流したり、好みの東海林太郎のメロディーを流して、気持ちを落ち着かせ、「まったり」とした気持ちを誘っています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	出来る限り、在宅で使っていた家具等を持ち込んでいただいている。ご本人が落ち着ける、環境作りを心がけている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	朝夕の申し送りや、入居者の心身の状態・状況を把握している。毎週水曜日には、訪問看護師とも入居者の状況・状態を確認している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	職員会議等で定期的なカンファレンスは行っている。心身の状況の変化・入院時にも家族の意見をお聞きしながら介護計画を作成している。	本人のできることは積極的にやってみようとお声掛けして、生活のリズム感が整うように全員が支援しています。「課題整理総括表」を活用し、カンファレンスで意見を出し合い、医師や訪問看護師の意見を加えて、計画の見直しに繋いでいます。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	介護記録に必要なことは記載している。朝夕の申し送りで、入居者さんの状況・様子を把握、共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	入居者、家族と一緒に考え対応している。必要に応じて、必要な機関につなげるようにもしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	町内会、保育園、教会、お寺等様々な機関と連携して、毎日を豊かに生活できるように心掛けている。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	入居者、家族の希望に沿ってかかりつけ医を決めて定期的な受診を行っている。	設立法人の医療機関で定期診療をしています。かかりつけ医への受診を希望する場合は家族同伴としていますが、やむを得ない時は管理者が付き添い、適切な状況説明を行って受診しています。毎週、訪問看護師による健康管理も行っています。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中であらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	H25年度より訪問看護ステーションと医療連携を取っており、入居者の健康管理に努めている。 又、法人本部が総合病院の為、必要時には、法人に相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者が入院した際には、ホームから病院にサマリをお渡ししている。 又、退院時には病院からサマリを頂くほか、主治医とのカンファレンスを必ず行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	看取りは行っていない。しかし、昨年は3名の入所者の方が、終末期をホームで過ごし病院で亡くなった。 H25年より、医療連携で訪問看護ステーションと医療連携は行っている。 家族には、入所に際し、見取りまでは行っていないことを説明、納得頂いている。	終末期における施設内での看取りは行っていませんが、入所時に家族、利用者とは話し合い、希望をしっかりと聞いて了解を得ています。重度化のときは医療機関と連携し、家族と再度話し合い了解の下、適切に医療機関への受け入れを支援しています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	利用者の急変・事故については、職員全員が応急処置や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	災害時の訓練は年2回行っている。1回は出来るだけ、近隣の方にもお願いしている。	春と秋に金沢消防署に計画書を提出して避難誘導と初期消火を中心とした訓練を実施しています。1回は運営会議の日に合わせ、町内会長や民生委員などの参加を得て、訓練後に反省会を実施しています。非常時の備蓄についても管理をしています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	馴染みの関係、親近感のある対応を心がけながらも、年配者としての誇りやプライバシーを損なわないような言葉かけや、対応を心がけている。	家族同様な繋がりを大切にしながらも個々の利用者のプライベートな思いを聴きとり、呼びかけの言葉遣いを工夫しています。来訪者のある時の呼び方も、おのおのの意向に沿って注意しながら選び、言葉掛けをしています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	入居者皆さんが自分の思いや、訴えを職員に伝えることが出来るような雰囲気作りを心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	一人ひとりの生活ペースを大切にしている。 入居者さんが出来るだけ、自力で日常生活の動作が行えるように、声掛け、見守り、何より待つことを大切にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	入居者自身の好みを大切にしながら、季節に合った装いが出来るように、声掛けし、さらにその方らしい装い、清潔な身だしなみが出来るように心がけている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	食べたい物は、利用者が常に職員に伝えてくる。出来るだけ思いにこたえるように心掛けている。調理は職員が行うが、片付け（下膳、食器・お盆、テーブル拭き）は、入居者をお願いしている。	職員が一週間交代で希望を聞きながらメニューを考え、買い出しや調理をしています。誕生月のイベント食の準備は、その月の利用者の希望が取り入れられています。食事は職員も一緒にオルゴールの音楽を聞きながらゆっくり楽しく食事をしています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事の形態、摂取量は個々の状況に応じて対応している。 水分は、朝夕の体操の後、散歩の後等身体を動かしたタイミングで、飲んで頂いている。夜間は、居室に麦茶を用意して好きな時に飲んで頂いている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	食後は必ず口腔ケアを行っている。 中には、「一日一回でいい」と、拒否する方もいるが、リンスを使って口を漱ぐだけでも行っていただいている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	必要な方には、排泄記録を付けている。 できるだけ、排泄リズムを掴むようにして、トイレでの排泄を促している。	夜間にポータブルトイレを使う利用者も複数人いますが、日中はできるだけ自立排泄ができるよう個々のリズムを見ながら対応しています。排便後は体調確認のためにすぐ流さず職員が様子を確認できるよう便器の工夫もしています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	水分摂取を心がけ、繊維質が摂れるように、野菜中心の献立を心がけている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	基本的には隔日の入浴となっている。 必要に応じて入浴回数を増やしたり、ご本人の希望や行事で減ることもある。入浴を嫌う方には、入浴が楽しめるように、香りや色を楽しめる入浴剤を使ったり、ゆず湯、しょうぶ湯等季節の行事も楽しんでいる。	家族の厚意でリフト入浴の設備ができています。安全上必要な時は二人介護を行いながらも、一人でゆっくりした入浴ができるよう支援しています。季節に合わせた入浴剤なども揃えて楽しい雰囲気づくりをしています。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	心地よく眠れるように、オルゴールのCDを流したり、夕食後の時間をゆったりと過ごして頂いたりしている。深夜に起きてしまう方には、しばらく居間で過ごしていただき、しばらくしてからベッドに戻って頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	服薬は、職員が管理し、職員一人ひとりが入居者の薬について理解している。（カンファレンス、ミーティングで確認、お薬の説明書を介護記録にファイルしていつでも、確認ができる）ご本人の状態を正しく主治医に伝えている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	家事、園芸、手仕事など其々の入居者の方がやりたいことを中心におこなってもらっている。草むしりは皆さん楽しみながら参加して下さる。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけるように支援している。	毎日の散歩を日課としている。毎日の買い物もできる限り、利用者さんと一緒に行くようにしている。お墓参りの希望や、友人に会いに行きたいなどの希望は、ご家族と相談し実現している。	地元出身の入居者が多く、毎日三十分程度近所を散歩しながら近隣の住民と接触を保つよう心がけています。近くには神社や寺院、保育園、昔ながらの商店街があり、下町の風情が漂っています。時折、昔の友達が来訪して部屋で歓談することもあります。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	ご家族と相談、ご本人の希望があれば現金を持っていただいている。外出時には、自由に現金が使えることを入居者に説明、買い物をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	希望があれば、いつでも電話が出来るようにしている。又、外部からの電話の取次ぎも行っている。 手紙についても、自由に出せるように、お手伝いしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居者と一緒に季節の壁飾りを作ったり、季節の花をテーブルに飾ったりして、穏やかに楽しく過ごすことが出来る環境作りを心掛けている。 時間帯によっては、邪魔にならない程度にCDで音楽を流している。	掃き出しの窓のある明るい開放的な空間となっています。壁には保育園児の来園時の写真や飾りがあります。ブックスタンドには新聞、本などが置かれ自宅の居間を思わせるような懐かしくほっとする雰囲気づくりをしています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	居間には、それぞれご自分の席があり、くつろぎながら過ごすようにしている。玄関にはベンチを設置、一人になりたい方はそこで過ごすこともある。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居室は、ご自分の馴染みの家具等を可能な範囲で持ち込んで頂いている。 ご本人の希望に沿った部屋作りを心掛けている。	エアコン、ベット、タンス、洗面台が備え付けです。仏壇や写真立てなど思い思いのものがあります。施設からソファの提供を受けてひとりゆっくりテレビを楽しめるような工夫がされています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	歩行が可能な方には、2階の居室を利用いただき、日に最低3回（食事の度）、階段を上がり下がりしていただいている。 歩行の不安定な方には、手すりを利用していただき、出来るだけ自力での歩行、移動をしていただいている。		

平成28年度

目標達成計画

事業所名

グループホーム そよ風

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	15	・アンケートの結果から、ご本人が今のサービスに満足しているかどうか、ご家族から見て分からないとの回答が少数だがあり、まだまだ努力が足りないことを実感した。	・ご家族全員が、満足できるよう努力したい。	・ご家族の面会時ご本人の様子を伝えるとともに、ご家族から気にかかる点をお聞きしていく。	6ヶ月
2	37	・言葉で自分の思いや、願いを伝えることが難しい方たちなので、より一層きめ細かく利用者理解努める必要がある。	・入居者様の言動を、職員全員で共通認識し、どんなことを欲しているのかより理解していく。	・定期的なカンファレンスのほか、職員を入居者様ごとの担当を決めて、その職員が中心となり、職員間に入居者の思いを伝えていく。	6ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月